

平成16年5月31日  
共 同 会 議

アレルギー物質を含む食品表示制度に関して  
(厚生科学研究食物アレルギー全国モニタリング調査の結果を踏まえて)

(独)国立病院機構相模原病院臨床研究センター  
アレルギー性疾患研究部長  
海老澤元宏

# アレルギー物質を含む食品表示制度の背景

- 平成13年4月の食品衛生法の改正は平成9年、10年の”食物アレルギー対策検討委員会”のデータをもとに厚生科学研究の”食物アレルギー研究班”(主任研究者:海老澤元宏)において検討された試案に基づいている。
- 平成9年、10年の調査はレトロスペクティブな調査であったので、記憶バイアスがいっている可能性を考慮しプロスペクティブにデータを収集して表示制度の整合性を検証するために食物アレルギーモニタリング調査が食物アレルギー研究班において平成13年と14年に行われた。
- 3ヶ月毎に「食物摂取後1時間以内に発症した食物アレルギーによる有害反応」を医師が診療した症例をプロスペクティブにモニターした。

# 食物アレルギーモニタリング調査に関して

- 全国の2000名以上の医師の協力を得て行われた大規模調査を2年間にわたって行った。
- 2年間の成果として3822症例が集まり年齢・原因食品・症状・検査データなどが解析された。

# 調査方法

日本小児アレルギー学会員(2425名)、日本アレルギー学会認定・専門・指導医(1778名)に対し調査の主旨を説明し、調査協力の同意を得られた2011名(第2回調査時)を調査協力者とした。

協力者には葉書調査票を3ヶ月毎に郵送し、プロスペクティブに調査を行った。調査は平成13年1月1日~平成14年12月31日に行った。

## ☆調査対象

「何らかの食物を摂取後60分以内にその食物に対しアレルギー症状を呈し、かつ医療機関を受診したもの」

# 調査対象及び結果

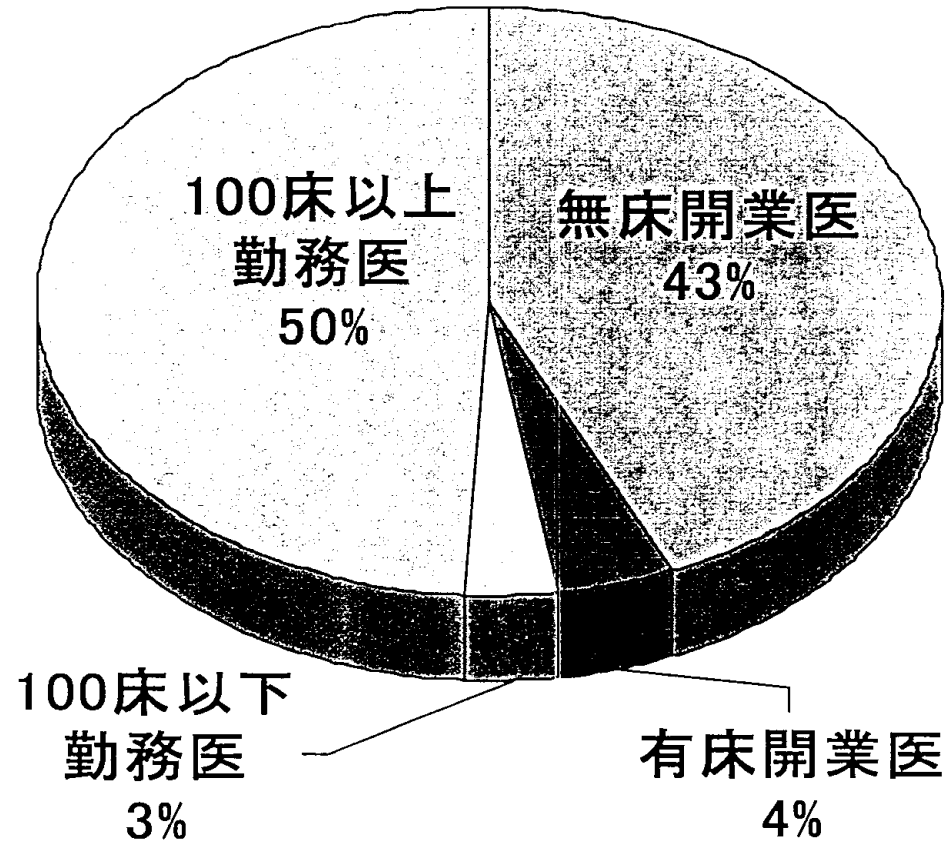
	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回
調査期間	平成13年 1月~3月	4月~6月	7月~9月	10月~12 月	平成14年 1月~3月	4月~6月	7月~9月	10月~12 月
対象	1430名	2011名	1991名	1988名	1986名	1975名	1972名	1958名
回答	905名 (63.3%)	1236名 (61.4%)	1149名 (57.8%)	1062名 (53.6%)	942名 (47.4%)	820名 (41.5%)	880名 (44.6%)	691名 (35.3%)
症例有り	235名	338名	398名	311名	251名	292名	254名	125名
症例数	430例	596例	789例	479例	415例	495例	430例	206例

**2294例**

**1546例**

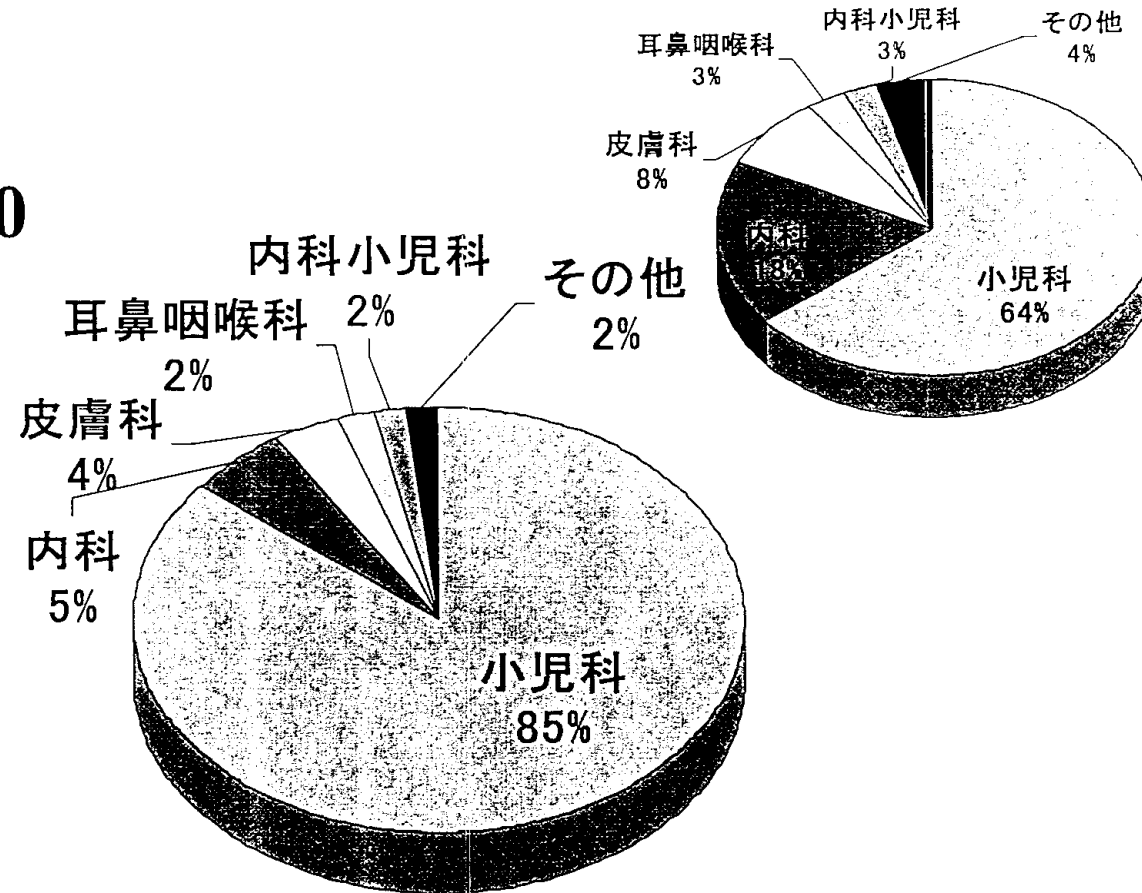
# 受診した医療機関

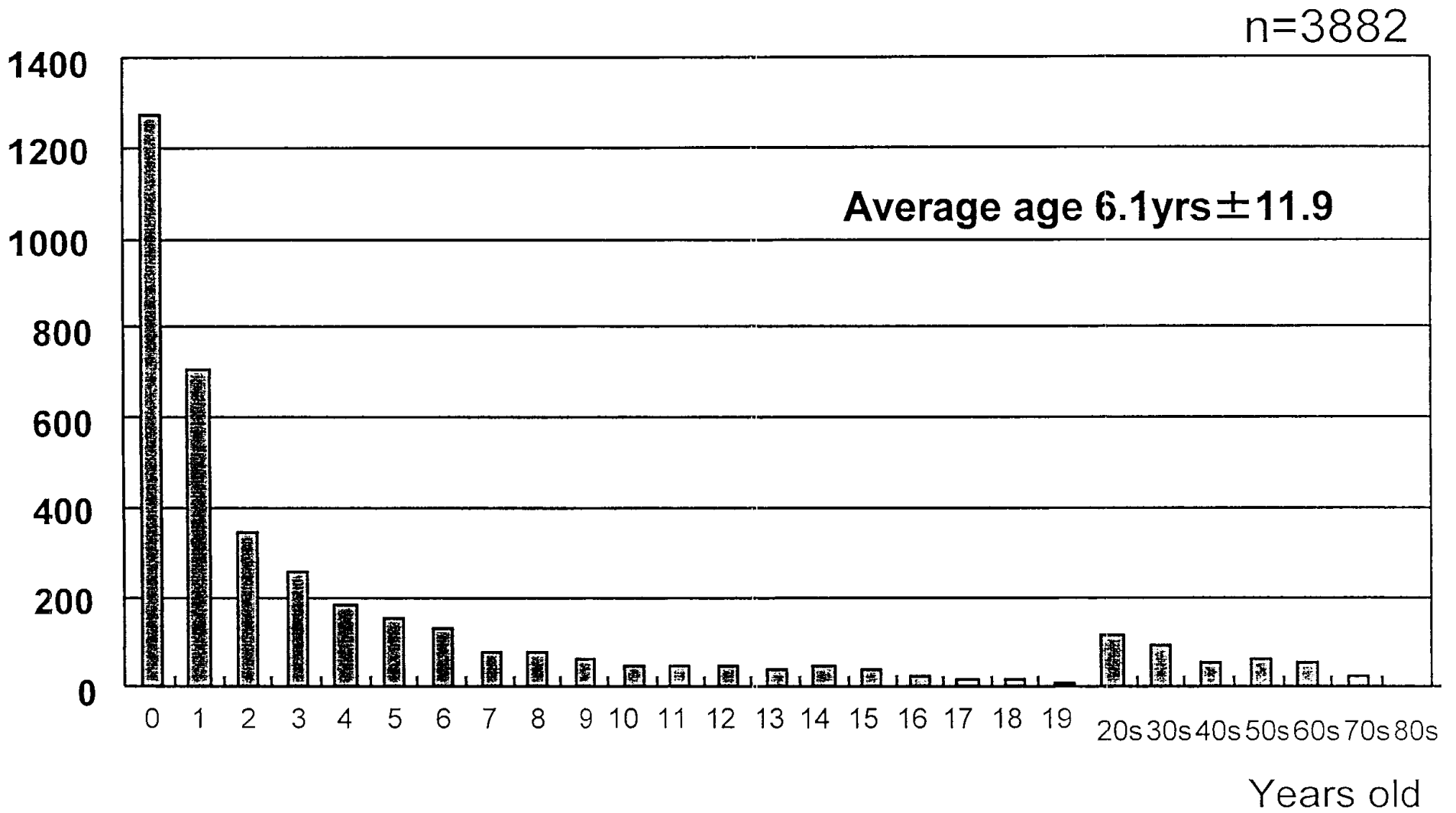
N=3523



# 受診した専門科

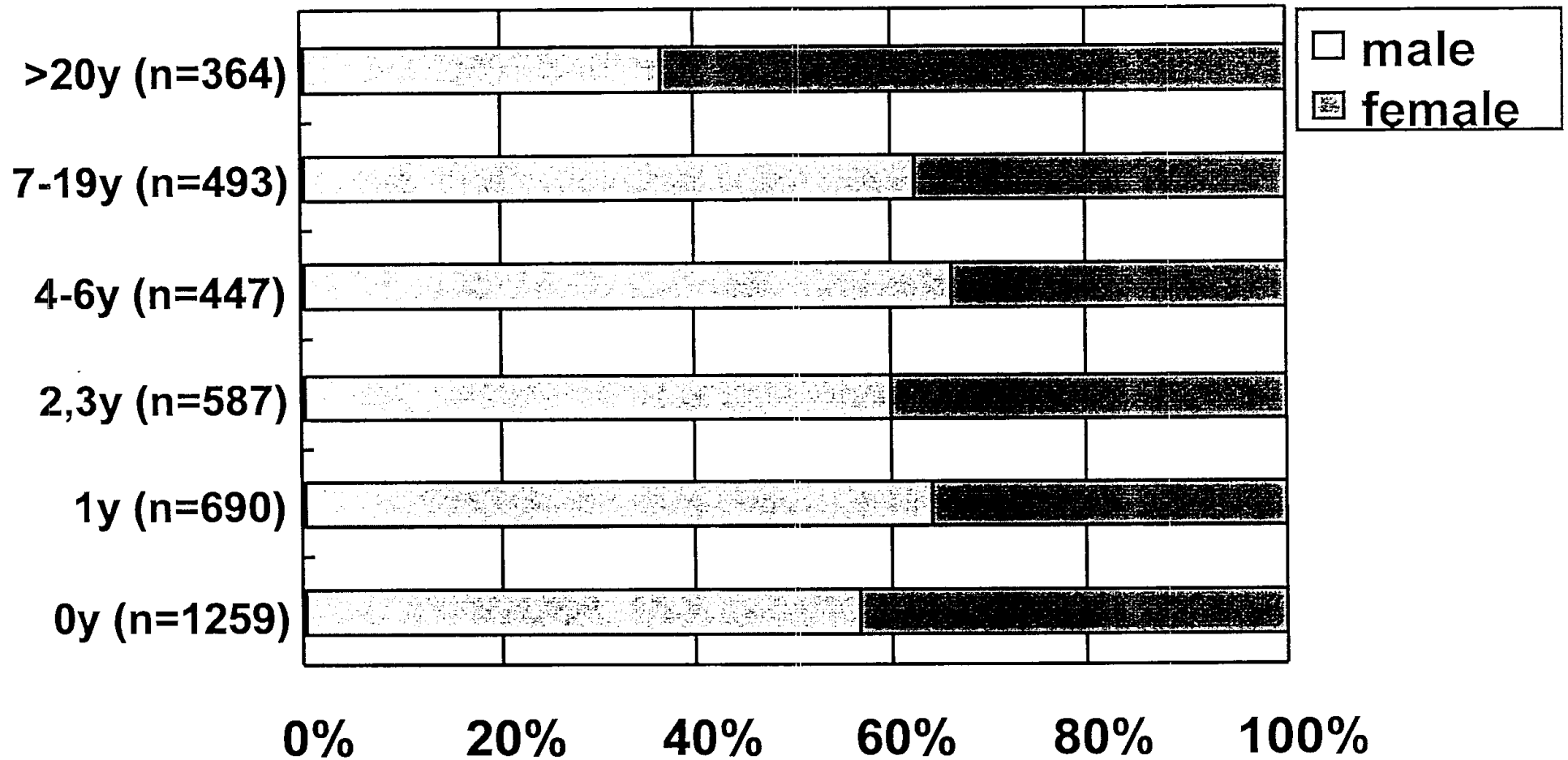
N=2800



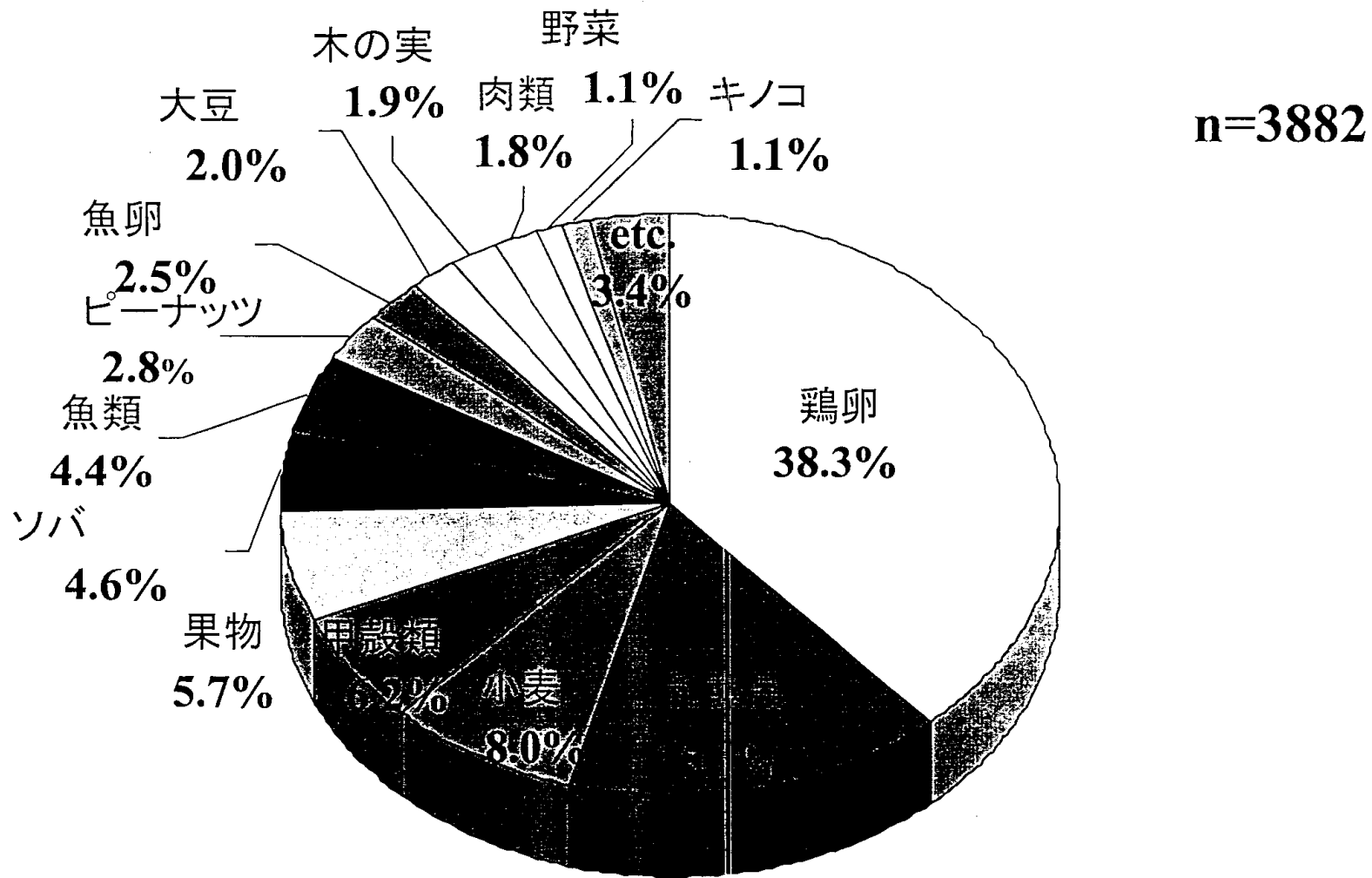


患者の年齢分布





各年齢群での性比



食物アレルギーモニタリング調査全体としての原因食品

<b>果物(n=232)</b>		<b>魚類 (n=171)</b>	
<b>Item</b>	<b>n (%)</b>	<b>Item</b>	<b>n (%)</b>
<b>Kiwi</b>	<b>75 (32.3)</b>	<b>Mackerel</b>	<b>24 (14.0)</b>
<b>Banana</b>	<b>40 (17.2)</b>	<b>Salmon</b>	<b>22 (12.9)</b>
<b>Pear</b>	<b>14 (6.0)</b>	<b>Tuna</b>	<b>13 (7.6)</b>
<b>Apple</b>	<b>10 (4.3)</b>	<b>Cod</b>	<b>11 (6.4)</b>
<b>Peach</b>	<b>8 (3.4)</b>	<b>Horse mackerel</b>	<b>10 (5.8)</b>
<b>Grape</b>	<b>8 (3.4)</b>	<b>Sardine</b>	<b>8 (4.7)</b>
<b>others</b>	<b>77 (33.4)</b>	<b>Amberjack</b>	<b>6 (3.5)</b>
		<b>others</b>	<b>77 (45.1)</b>

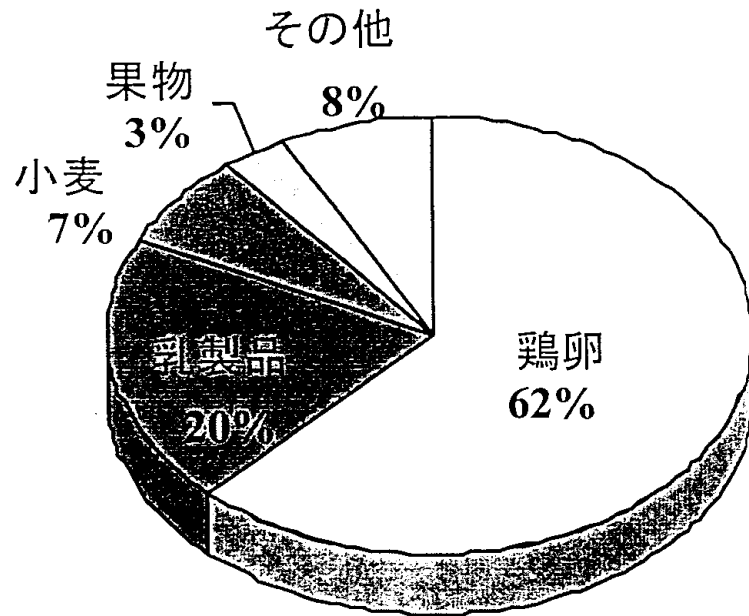
## 果物および魚類の内訳

<b>shellfish (n=241)</b>	
<b>Item</b>	<b>n (%)</b>
<b>shrimp</b>	<b>161 (66.8)</b>
<b>crab</b>	<b>40 (16.6)</b>
<b>scallop</b>	<b>10 (4.1)</b>
<b>others</b>	<b>30 (12.5)</b>

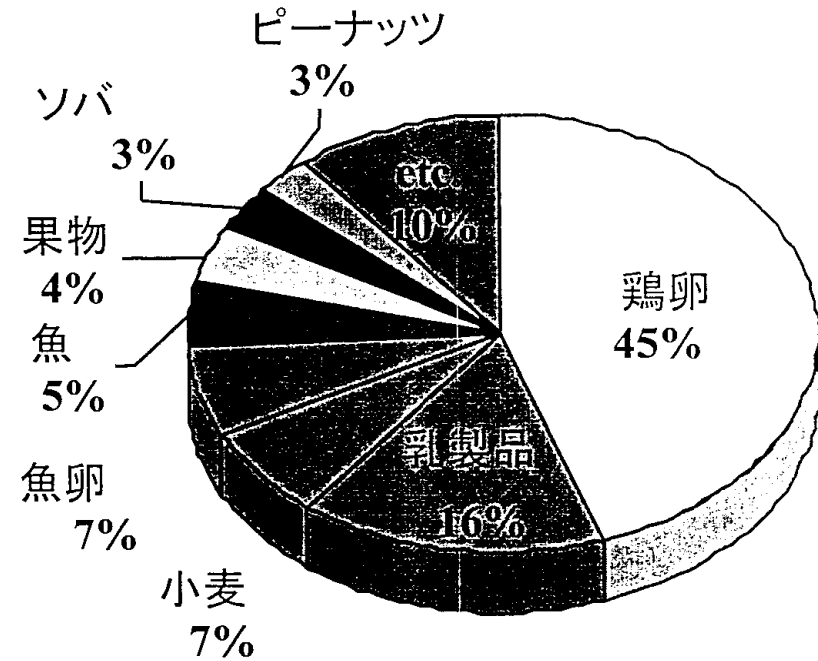
<b>meat (n=71)</b>	
<b>Item</b>	<b>n (%)</b>
<b>chicken</b>	<b>32 (45.1)</b>
<b>pork</b>	<b>23 (32.4)</b>
<b>beef</b>	<b>11 (15.5)</b>
<b>duck</b>	<b>3 (4.2)</b>
<b>others</b>	<b>2(2.8)</b>

<b>tree nut (n=74)</b>	
<b>Item</b>	<b>n (%)</b>
<b>walnut</b>	<b>32 (43.2)</b>
<b>cacao</b>	<b>16 (21.6)</b>
<b>almond</b>	<b>7 (9.5)</b>
<b>cash nut</b>	<b>7 (9.5)</b>
<b>macadamia nut</b>	<b>3 (4.2)</b>

甲殻類・肉類・木の實の内訳

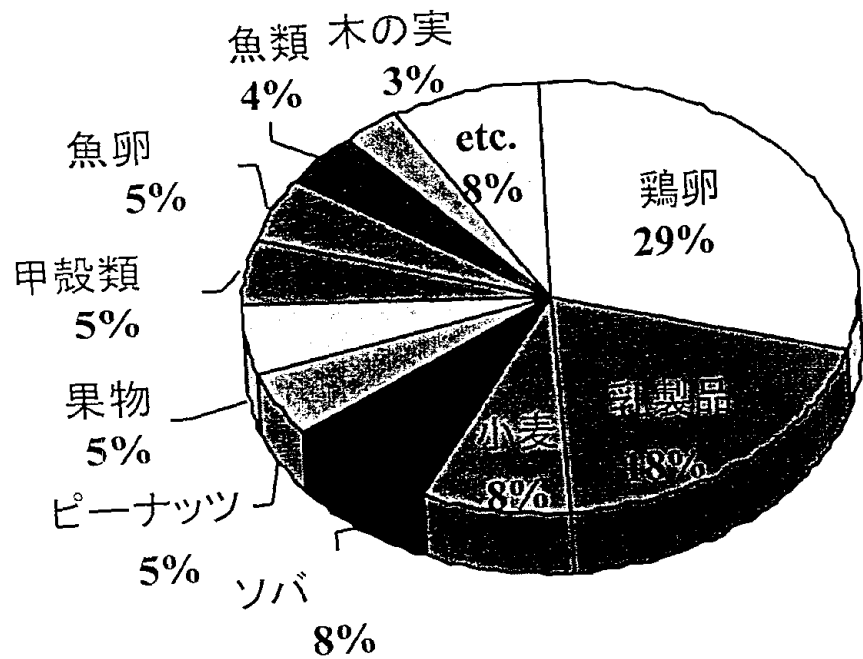


**0 y**  
(n=1270)

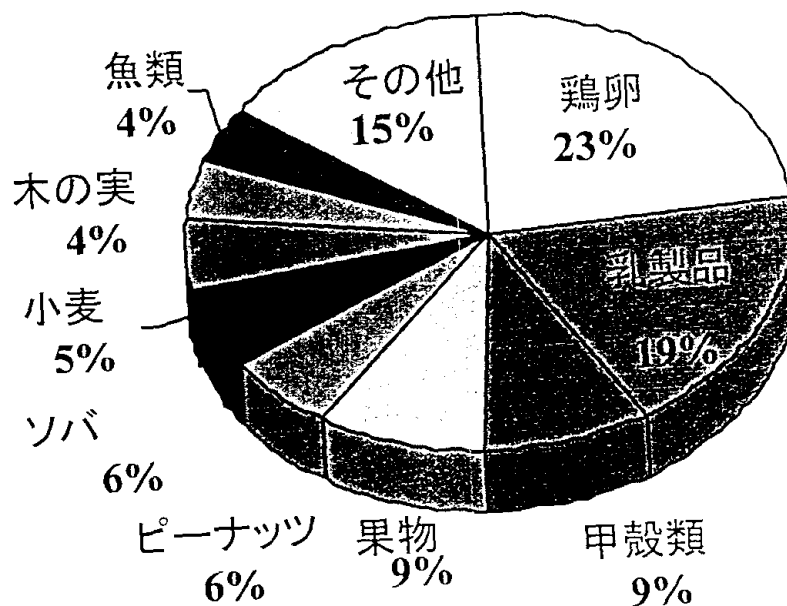


**1 y**  
(n=699)

## 0才と1才での原因食品

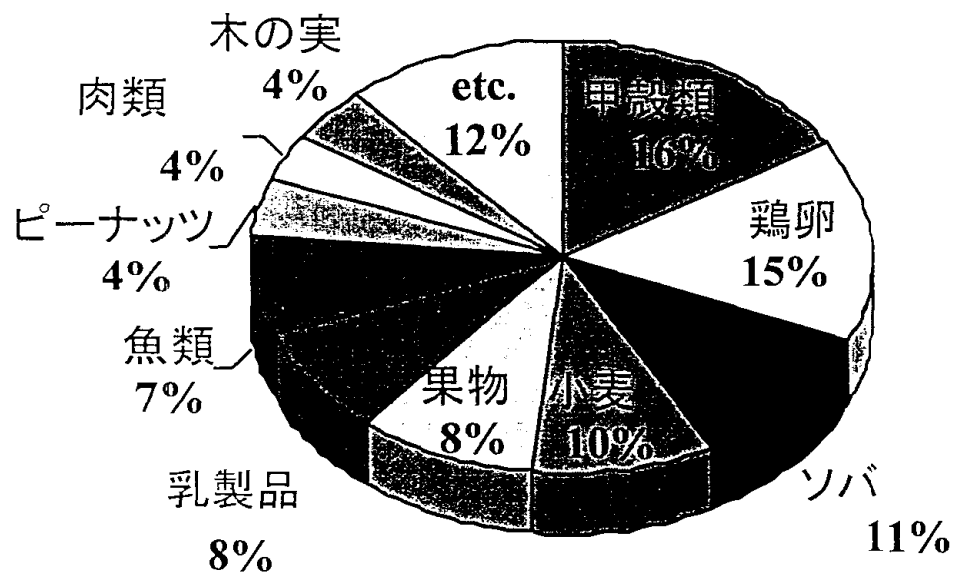


**2&3y**  
(n=594)

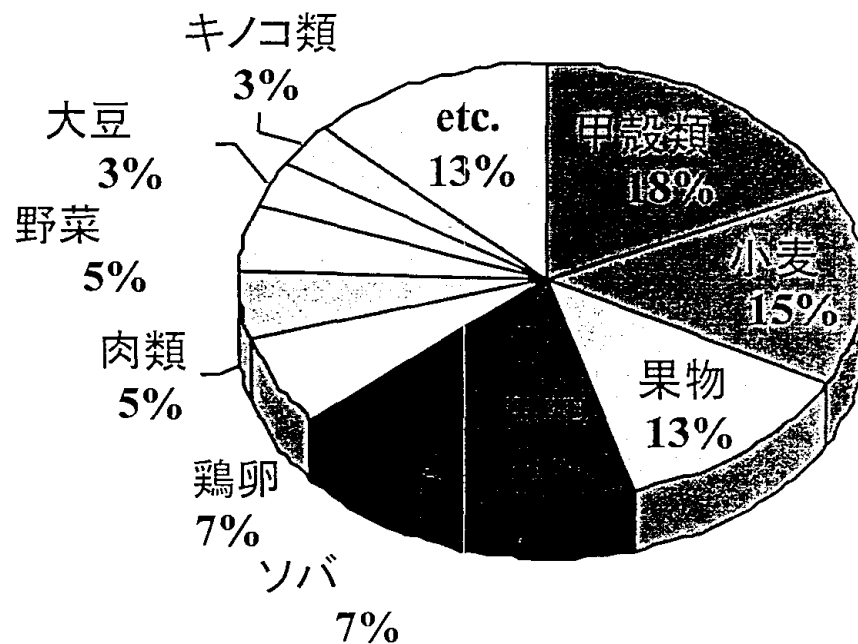


**4-6y**  
(n=454)

## 2, 3才と4~6才での原因食品

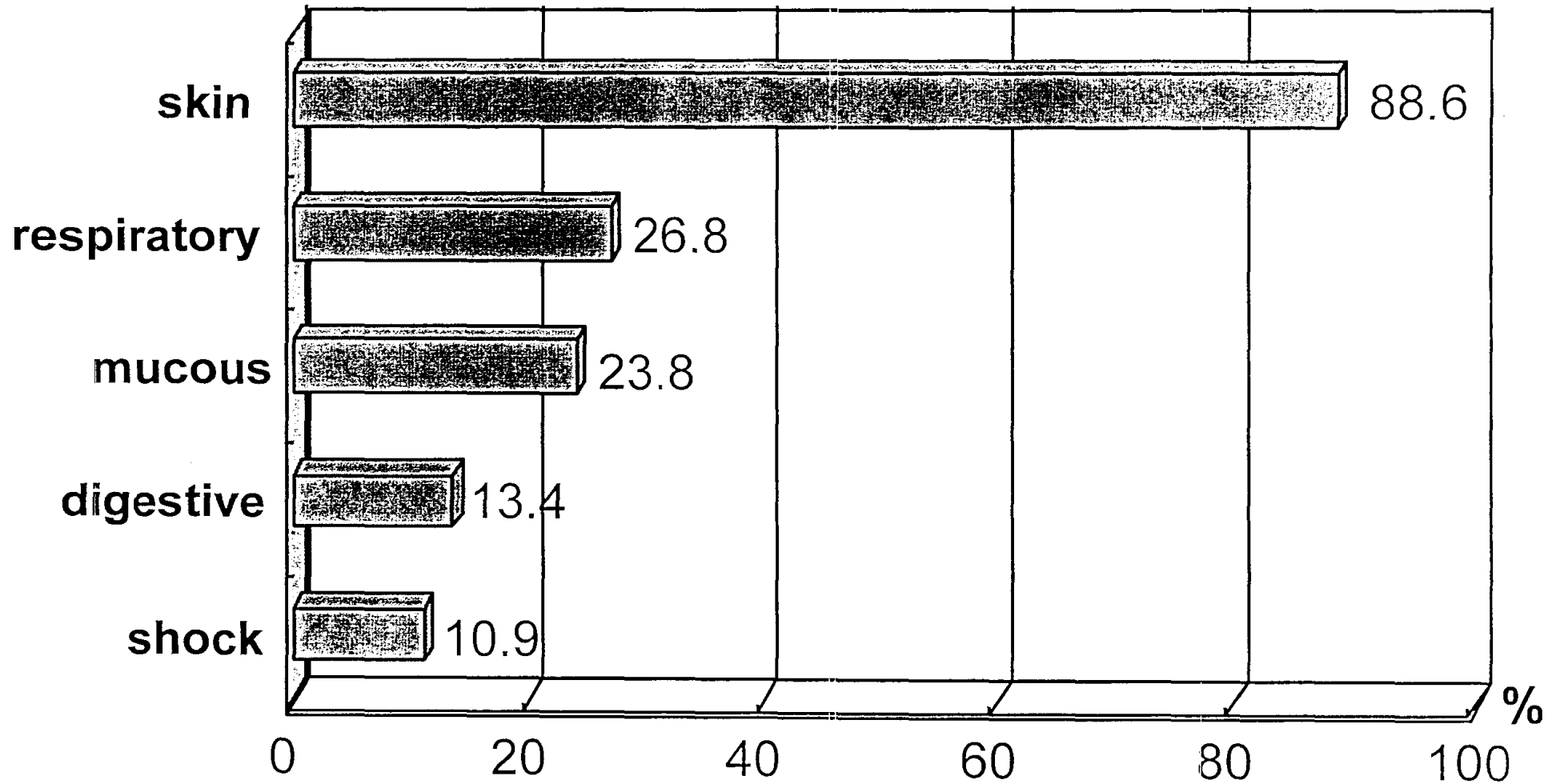


**7-19yr**  
(n=499)



**>20yr**  
(n=366)

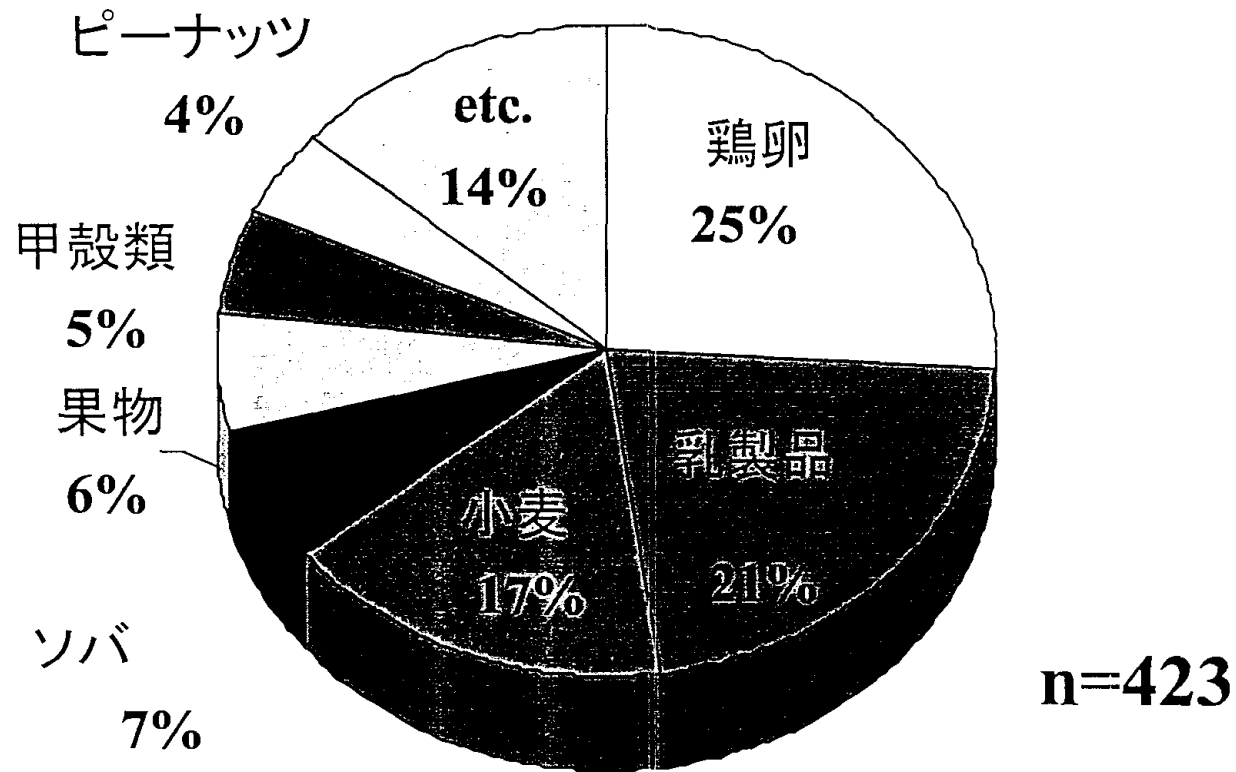
7才～19才と20才以上での原因食品



n=3882

報告された即時型食物アレルギーの症状  
(12.3% (465/3794) で入院加療を要していた)





Fruit : もも 8, キウイ 7, バナナ 4, など  
 Shellfish: エビ 14, カニ 3, など (cases)

## アナフィラキシーの原因食品

(43.6% のアナフィラキシー症例で入院加療を要した)

## アレルギー物質を含む食品表示との関係

順位	食物アレルギー例	例数	パーセント	順位	ショック例	パーセント	現行表示
1	鶏卵	1486	38.3	1	109	25.8	◎
2	牛乳・乳製品	616	15.9	2	93	22.0	◎
3	小麦	311	8.0	3	70	16.5	◎
4	ソバ	179	4.6	4	28	6.6	◎
5	エビ	161	4.1	6	14	3.3	○
6	ピーナッツ	110	2.8	5	18	4.3	◎
7	イクラ	87	2.2	7	8	1.9	○
8	大豆	76	2.0	9	7	1.7	○
9	キウイ	75	1.9	9	7	1.7	○
10	バナナ	40	1.0		4	0.9	
11	カニ	40	1.0		3	0.7	○
12	鶏肉	32	0.8			0.0	○
12	クルミ	32	0.8		2	0.5	○
14	イカ	30	0.8		3	0.7	○
15	サバ	24	0.6		1	0.2	○
16	豚肉	23	0.6		2	0.5	○
17	サケ	22	0.6		3	0.7	○
18	ゼラチン	18	0.5		1	0.2	○
19	ヤマイモ	15	0.4		4	0.9	○
20	モモ	14	0.4	7	8	1.9	○
21	メロン	13	0.3			0.0	
22	マグロ	13	0.3		1	0.2	
23	タコ	12	0.3		2	0.5	
23	牛肉	11	0.3		1	0.2	○
25	ゴマ	11	0.3		1	0.2	
26	タラ	11	0.3			0.0	
26	リンゴ	10	0.3			0.0	○
26	アジ	10	0.3			0.0	
26	ホタテガイ	10	0.3		1	0.2	

その他	ブリ	6	0.2		3	0.7	
	オレンジ	4	0.1			0.0	○
	アワビ	3	0.1		1	0.2	○
	マツタケ	0	0.0			0.0	○

合計 24品目

◎:義務	5
○:推奨	19